

大和の光

7月号

《発行所》

大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話 (代) 022-261-2525番
振替 仙台 02220-3-45512
発行人 大和教団 定価50円



神紋
八咫鏡と太陽を
かたどったもの
で、国家の隆昌
と世界の共存共
栄を意味してお
ります。

教統継承三十周年 教主様御誕生祭



ある日、武道家の事も掲載されている「気マガジン」という雑誌が送られてきた。頁をめくると「現代神道の会」での講習会の記事案内が目が留まった。名古屋であったが、電話して行くことにした。

当時、私は外での勉強は大和教団の身分を伏せ、合気道人であり旅行社経営の肩書とした。私の身分を明かすと諸々のことを学ぶに支障ありと私は思い、一般人として何も知

教主様随想記 大和神隨らの道(五)

ある日、武道家の事も掲載されている「気マガジン」という雑誌が送られてきた。頁をめくると「現代神道の会」での講習会の記事案内が目が留まった。名古屋であったが、電話して行くことにした。

当時、私は外での勉強は大和教団の身分を伏せ、合気道人であり旅行社経営の肩書とした。私の身分を明かすと諸々のことを学ぶに支障ありと私は思い、一般人として何も知

五月二十二日、高山市の崇教眞光さんを表敬参拝、岡田光央先生と親しくお話しさせて頂いた。大勢の職員の皆様から温かいお迎えを頂き、講演までさせて頂いた。夕食の折りに岡田先生より仙台とか山形等とか、近県にての教会にて是非講演をの依頼を受ける。大國主大神を祀りしごとくに深き神縁を感じるものとなった。

翌二十三日には富山の瑞詮寺にコロナ禍以来の参拝をさせて頂いた。今、瑞詮寺とのお縁を結ばれている方々とも少人数の茶会をもたせて頂き、一時間程、神拝詞を紐解く機会を得た。始めは皆さん緊張されていたが、次第に和やかな教えの庭となった。これからの大和の種を少しくまかせて頂いた。久し振りの遠出のこともあり、少々疲れはあるものの良い信仰の旅となった。

六月八日には私の教統継承三十周年を記念しての八十一歳の誕生祭祝賀の会にてご来賓、教信奉者の有り難いおこころを賜り「両親を語る」として一時間程、お話しをさせて頂

いた。そして、多くの信仰者の皆の前にて父を偲び、母を偲び語るは父母を称え、生涯の御恩に報ゆる一つではあると存念するものでもあった。

六月二十日より二十二日までの二夜三日の禊祭は、天地一切清浄大神業と称え奉りての一大神事であり、



いなかったとのこと、何よりであった。直会結びでの大和太鼓舞いに職員の幼児等も一緒に大床にて舞ったとのこと。とても愛らしく一瞬にしてその場は和みしものと。幼児の愛らしき力と云えよう。

また、皆様にご心配を頂いていた私の皮膚の病も因縁解除の神事を六月四日に執行させて頂き、大き稜威を拝し、回復の兆しにあります。四年にも及ぶものでしたが、五月三十一日未明に御神示を拝し、因縁の太元を諭されての神事執行でした。誠に有り難き極みでありました。

今後は、足腰をも鍛え乍ら更なる善導救済の聖業に努めるべく意を固めるものです。

結びに感謝の意をもって、身上のこと教報誌面をもってお伝えをさせて頂く次第です。

謹謝

令和七年六月二十三日
教主秀胤

屈みて水槽より桶をもって作法に則りて水を被る。

出雲での滝行の折りの作法よりは少し多いものを体感す。滝行とは違う良さもあるなど。

これが後に万象館道場の禊行場の形ともなった。石田先生のこともし解り始めた。杖道の師範で指導しているとも。空手も高段者であるとか。

この会での禊流の系統は川面凡児翁の高弟であった多田雄三師の系統という。その高弟でもあった近藤信二郎先生という方が指導されていると。九十歳に程近き方であったが、

(二面四段へ続く)

教統継承三十周年 教主様御誕生祝賀



斎主教務総長による教統継承三十周年並教主様御誕生奉告祭

選挙区支部長の土井亨先生よりご挨拶を頂き祭儀は修められた。

祭儀に引き続き、祝賀式典が開式され教主様、教母様は大床本座に著かれ教務総長により開式の辞が述べられた。

日本会議の野崎昭夫事務局次長と特定失踪者問題調査会の増元照明副代表に、教主様より献金が手交され記念撮影が行われた。

次に教信奉者代表、総裁家から教主様、教母様へ花束が贈呈され、ご家族での記念写真撮影が上げられた。

来賓祝辞を相談役仙台市議会議員渡辺博先生と同じく相

六月八日午前十時、大國神社祈禱殿において、教統継承三十周年並びに教主様御誕生奉告祭が盛大に執り行われた。

教主様は平成七年十一月三日に教統を継承なされて本年で三十年を迎えられ、六月十九日に数え八十一歳のお誕生日をお迎えになられた。

斎主教務総長により、祭儀は斎行され、修祓之儀の後、斎主拝礼、祝詞が厳かに奏上された。

次に玉串を、斎主教務総長、教主様、教母様の順に奉奠されご来賓、総裁家、教信奉者代表の玉串拝礼の後、本教顧問自由民主党宮城県第一



教主様・教母様お揃いの玉串拝礼

談役仙台市議会議員の斎藤範夫先生より頂き教務部長畠山真由美教師より教主様へ感謝のことばが述べられ来賓紹介、祝電披露がなされた。

引き続き、『教主様両親を語る』と題して教主様による記念講演が行われ祝賀式典は修められた。

続く祝賀直会では、教主様を真中として盛大に鏡開きが行われ、特定失踪者問題調査会増元照明副代表によるご挨拶と乾杯の発声が行われ和やかに祝宴が開かれた。



教主様、教母様を真中に盛大に鏡が開かれた

教主様随想記 大和神隨らの道(五)(続)

姿勢正しく、美しい姿の先生であつた。この会には平成元年十月頃から毎月、通うようになった。

しばらく通い始めそれなりに親しくなり、二日、三日とホテルに泊まり、石田先生の時間をみて指導を乞うようになった。

私の熱心な姿に先生も私に期待されるようになった。反面私は教団の身分を伏すことに申し訳なさの心も次第に大きくなっていった。

平成四年に会の有志の方と仙台に來られて万象館道場を拝され、大日本祓禊所仙台祓禊所の開設が許可され、併せて神祇伯雅壽王太瓊傳門脇傳直傳三世として禮日公名をも賜った。

教本の一つである「言霊の幸」の著書を譲り受けた。副題にて日本神道・禊の教典とあり著者名は多田雄三とあつた。開くと難解な文章であり、よく理解出来得ずであつた。

多田雄三先生は日本画家で、近代日本禊の創始者・稜威会創立者である川面凡児翁に入門、修行され高弟として、翁に従つて各所の禊に参加したとある。

「言霊の幸」は秘著として公刊を禁じられていたが、門下生である祓会員の成瀬彌五郎氏、三井章義氏、白岩青雲氏等が、このままではこの貴重な書が永久に埋もれかねないとして、師翁の叱声を耳に栓して発刊したと記されていた。

この本を図書館で見て心ひかれ、千葉県の安房町まで行きて成瀬先生にお会いし、白浜で民宿をなし、稜威会の禊鍊成に場を提供されていたという。

何回か通う内に、愛知の豊橋に近

藤信二郎という私共の先輩がおるから話して教えを乞うたらと云われ、現代神道の会を立ち上げたという。

後日に知るところとなつたが、この教典が教団にも贈呈されていたを知るのである。やはり一つの奇すしき道縁ではあつた、その後、私も成瀬先生と手紙の交流をさせて頂いたが、帰幽されたを知り、白浜までお参りに行かせて頂いた。先生の娘さんが健在で民宿を受け継いでいたが数年後には閉じられたことを聞き知り、私は先生の遺されたものがあれば、差しつかえなければお譲り願えますかと申し上げると、禊で使用されていた案とか一式を、更には残されし著書、掛け軸等も賜った。誠に有り難きことであつた。

その後、奥様共々万象館に参られ成瀬先生の遺品をこうして大切に保管して下されば故人もきつと喜ばれるでしょうと。

私の誕生祭にもお越し頂いた。その後、娘さんである奥さんを亡くされたが、今も親しくおつき合いをさせて頂いている。

石田先生は近藤先生の申し出にて成瀬先生より多田先生の貴重な秘資料を借り受け、全てをコピーされ戻したと。お茶箱三個分もあつたと話されていた。私にもその一部を伝授されている。それは正に秘資料、禊の密教を覚るものであつた。川面凡児翁の伝を表とすれば、裏を悟り得し秘教であるとも称されている。

私はその流を拝したことになる。

石田先生は神道家の家柄でも何でもない市井の方ではあるが、不思議な程、多くのことを身に修められていた。私にはやはり相応しいご縁を結ばせて頂いたを知る。

後年、教団の顧問にもなつて頂き開祖様のお祝いにもお招きをさせて頂いた。著名写真家の花の写真数点を

を教団に恵贈下された。

病に伏されたを聞き知りて、お見舞いにと申したが、奥さんは頑に辞された。後、帰幽されご霊前への参拝も辞された。誠に残念であつた。仙台の地より遙くご冥福を祈らせて頂いた。

先生が昭和五十一年九月に出版された太瓊伝・ト占編の編者略歴をみると、

石田瑞日公 昭和二十四年名古屋で出生。

本名博昭。幼時より武道に励む。現在、空手道五段、神道夢想流杖道六段錬士。霧隠流忍猪子才蔵二十五代。金剛道道士。

昭和五十七年より近藤信二郎師に師事。禊流の神伝多田教学を学ぶ。昭和五十八年八月より、門脇稜日公師に師事。昭和五十九年十月一日、門脇師より瑞日公の道名拝受。道統を継承す。

現在、名古屋にて、「現代神道の会」を主宰。

著書に「十種神宝の秘儀。みそぎ行事入門。神祇伯太瓊伝。月刊みそぎ」とあつた。

石田先生の供養の為に感謝の心の一端として記させて頂いた。

石田先生の志しを大和にて継承させて頂くをお誓いするものである。

追記となるが先生は大石凝真素美翁の言霊学研究家の子弟である水野満年氏の娘さんである寛尚子氏のご縁にても学び霊鋒大日本言霊概説という著書の再版もなされている。

ホツマツタエの池田満氏とも交流あり諸々のことよく学ばれていた。神占にも精通され、私も一通り学ばせて頂いた。

有り難い師の一人であつた。

令和七年四月二十五日

教主秀胤

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

教主様記念講演 『教主様両親を語る』



教主様より記念講演を賜る

皆さんご苦勞様でございます。ご来賓の先生方皆様はじめ、信奉者の皆様、今日はこうして私のためにご参集頂きましたこと、心より有り難く感謝申し上げます。ありがとうございます。

昨年、皆様に傘寿という八十のお祝いを盛大にして頂き、今年は八十路に一つ歳を加えました。この大和教団に勤めて五十有余年。開祖様より教統という継承を頂いて三十年。自分でもよく歩んで来たものと思えます。何も知らない若者が神様とのご縁を頂き、夢中で行に心を重ねて参りました。色々な方、霊界からの導き、神界からの導きを頂き、現在があります。

先程畠山真由美教師が、「数奇な人生」と申していました。私の人生も様々なことがあり、その都度、私を守って下さる方がいらしたのです。ご先祖様も神様も知れませんが、何度命を落としかけたことでし

よう。でも助かるのです。不思議な有り難い人生を送って参りました。

今日は私の父上、保積謙光様、母上である開祖様、保積史子様に、私が小さい時から今日に至るまで心に残っていることを感謝し、皆様にお話ししたいと思います。

父は現在の名取市の閑上という町の生まれです。松浦芳雄と云いました。名取の熊野神社でお務めをしていたと聞いており、母上とは五歳違う年下のお嬢さんです。

先日、私の遠縁にあたり教団に長年勤めて頂いた川村さんが、こういう写真を見たことありますかと二、三枚の写真を持ってきて来ました。父親と母上の結婚式の写真でした。若い頃の父親は口ひげを生やしていて、本当に好男子でいい男でした。母上はふつくらとした美人でした。敬一郎爺さんの葬儀の写真は沿道に沢山の人が並び、花輪がずっと道路に並んでいました。それ程の人であつたのだと偲びました。

私は塩釜市の生まれで小学六年生位まで居りました。父親は本当に厳しい人でしたが、本当の愛情を注いでくれました。昔から「三つ子の魂百までも」ということわざがありますが、その時の父親の一つひとつの私にして下されたことが、今も大きく生きております。

私は生き物が好きで、鶏を飼いた

いとと言うと、父は、「鶏は自分ではごはんが食べられないのだ。お前が食べなくても食べさせなくてはならないのだ。お前に出来るか」と。あの当時は餌など売られていなかったのでも、裏山に行っておおばこ等を摘み、米屋さんでぬかをもらい、貝殻を塩釜

の浜で拾って来て、砕いて作り出した。飼いたい一心で三羽位飼いました。卵を産むようになり、子供心にも大したものだなと思いました。そのうちに兎も飼いたくなりました。父から、「お前は鶏を飼って更に兎まで飼えるのか」と言われましたがちゃんとやるからと言って育てました。父は手伝いなど一切してくれませんでした。私は生き物の命を守らねばならないという覚悟がなければ飼えないことを学びました。今の世の中、生き物はお金で買って、可愛い時だけ可愛がり、面倒臭くなったら捨ててしまおうということが、残念ながら多くなっております。日本人の心ではないですね。人の姿をしているけれども、人ではないのです。日本人の大切な心、やまと魂というのが何処にもありません。

大和はそのやまと、日本の先祖が歩んで来た大切な命を、考え方を養う所です。私たちは日本人で、異国の者ではありません。この国土で、その国柄を知って人柄を知って今日に至ります。天皇陛下はその真中におわします。日本人の魂は異国の魂ではありません。何処にも無い尊い命です。勤勉で誠実で、情けは厚くという命を私たちは先祖から頂いております。

父は生き物を飼うことから、命を預かる尊さを教えてくれました。私は小学五年生の頃、カナリアという綺麗な声で鳴く鳥が欲しくなりました。父にカナリアを買ってと頼みましたが、「色々飼っているながら何を言っているんだお前」と言い捨てられました。小一年経って父は、朝の六時頃に「おい秀坊、いくぞ」と云われま

れました。塩釜神社の入り口に味噌醬油屋さんがあって、その方が父親の大和教の役員をしていました。何も分からないままにそこへ連れて行かれ、父は血統書付きの生まれ、ナリアを私に授けてくれました。私の希望を叶えてくれたのです。飛び上がるばかりの喜びでした。男は口先ではない行動で示せ、形をつくってやらないと駄目だと教えてくれました。

喧嘩をしたら勝たなくてはならない。運動会でも一番でなければと、父はそうやって育ててくれました。試験の為に、家で勉強して良いかと聞くのと「駄目だ、学校でやりなさい。家では家の手伝いをしなさい。」と。私は動物の世話をすると早くに学校へ行き、誰も居ない教室で勉強しました。父が時間の使い方なり本気になるってさせる根性を作ってくれました。

こんなこともありました。給食費を払うお金を下さいというので、父は「今はお金がないと、先生に言っておけ。二日位したら、持つて行くから。」と。恥ずかしくも先生に話すと、「ああいいんだ。いいんだ。」と先生はえらく父に気を遣っていました。私が小学校を卒業する時には校長先生、教頭先生、担任の先生等五人をお呼びして私の卒業をお祝いしてくれました。先生方は夫々万年筆とか、色々プレゼントを持って来てくれました。その時は分かりませんでした。父が校長先生達を呼べるのだろうか、何か学校に力があつたのだろうか、凄い父親だなと思いました。

大学へ入って、三年の頃、久し振りに父の元へ行きました。おっかない親父だから、明大の合気道部の友人を誘って一緒に行ってと。何年も親父のところに行っておらず、会いたいけど恐かったのです。いざ玄關に立つと案の定「何しに来た。うぬ等。帰れ。」と云われました。

私は母の元へ家出したものですが、それは母の元へ家出したものと、父は囲炉裏端から立つて、台所の冷蔵庫からビール三本を持って来て、一本ずつぼんぼんと置きました。私等がつき合おうとすると、「つぎ

合いなどするな。お前が一番飲むから。」と、そんなことを言っておりました。口は悪いけど温かき人でした。

これは塩釜時代の信者さんから聞いた話ですが、戦後間もなく県庁で宗教者の会議が何かで、その時壇上で喋っていた人のことがよほど父は腹が立った様で、ずかずか行って、首根っこ掴んで引きずりおろしたそうです。そういう父親です。正義感が強かったのです。義理人情にも本当に厚い人でした。父と何回か会うようになり、「いいか、秀信。義理人情だけは忘れるな。恩は忘れるな。俺が受けた恩を、俺が返せなかったら、お前が返せ。」と。「返す人が亡くなっていたらどうするの」と聞くと、「その子供に帰せ。」と即答でした。私の心には、義理人情、恩という精神がしっかりと宿っていました。大に小に恩を受けたら返さなくてはならないのです。人の世でもそのうなのだから私は今、神様の大恩、自分の命、全て天地の神々、大自然の恩恵を受けての命です。返さなくて良いはずがないのです。

感謝の祈りをしなさい。天地の恵みに、太陽の光に、この大地の水に生かされていることに感謝の祈りをして下さい。私は幼い時、青春真っ盛りの頃、父からそういう人として生きろ、日本男児としてこう生きるのだと叩き込まれました。

父は大正二年四月三十日に生まれ昭和五十年三月十九日に六十八歳で亡くなりました。父との濃いつき合いは小学校の中でも三年間、大学の二年です。五年の付き合いで私の人生の柱をつくってくれました。本当に有り難いと思います。弱い者は生きてはいけません。体も心も、頭だって鍛えなくてはならないのです。努力すれば皆それなりにちゃんとすると、神様は人を造られたのだと思います。

食事に一分でも遅れると食べさせ

てもらえませんでした。遅れると座らせられ、バケツに水を汲み、井ぶりに水を入れて頭に掛けつけられて、そのうち足が痛くなり動くと井ぶりの水がじゃあつと落ちます。バケツから汲んで、またこうして座らせられてと、傍に付いているわけではないですが、三、四回はこぼれたでしょう。父が来て、「いいか、約束は守る事だ。破れば罰せられる。」と教えられたことが忘れられません。

私は生れた時に体が弱く、小学校に入ってから三ヶ月間ははしかになっ

母は子供の面倒を見たくても、見られない環境にあったという事です。沢山の人とお話ししたり、拜んだり子供に構う時間など有りませんでした。信者の皆さんは行列して拜んでもらうのを待っていました。母親として子供の面倒を見られない苦しみはどれ程であつたらうかと今は思います。困っている人のために身も心も時間も捧げたのです。私も今、同じような道を歩ませて頂いて、少しく解るようになりました。

今朝、霊示を受けました。私が大受験に合格した時のことです。早稲田大、中央大の商学部を受け、明大は法学部でした。母は小雪の中、拜殿の方から下駄を履いて、教団の小道を、「秀信、受かった、受かった。」と小走り而走つてきました。明大の法学部に受かりました。今朝、そういう光景を見られました。あれが母親の姿。子供に対する母親の姿だつたのだと、今朝になつて感じる事ができました。合格の知らせを持った手を上げて走つて来られて、それが精一杯の愛情だつたと八十一歳になつて気がつきました。感謝が全然足りておりませんでした。今朝有り難いお諭しを頂きました。教団に勤めさせてもらい、「あなたのことばは敬一郎爺さんがちゃんと導くから、神様のことをやったら、と何年か経つてから云われました。私は事業部に入り、神様のことはしなくても良いと思つていましたけど、本当にそうになりました。母上が「爺さんは、運命学や祈祷に凄い力を持っていた人だ。あなたも運命学を勉強するか。」と小さな葉を持つて来られ、東京に通う事となりました。更に、「爺さんは、出雲大社で八百萬の神々をお迎えしてお帰するまで、これは一生に一度は行つて参列するが良いと云つていた。私は行けなかつたけど、行くか。」とも申されました。奈良吉野での金峯山寺での修行も毎年お参りにいき、晩

方に着いて翌午前二時位には行を執るという、そういう姿を管長先生も皆見ていたのだでしょう。

やはり開祖様の温かい姿。私が管長先生に、「私のような他宗教の者が金峯山寺さんの護摩を焚く修行をさせて頂けるでしょうか。」とお願いを申しました。考えてみましょうと申され、そこから三年掛かつて修行に入らせて頂きました。こういう縁を母親、保積史子様のお人柄を金峯山寺の管長先生も奥様も感じ取つて、その辺の宗教団体ではないというところの縁だと思ひます。私一人で頼んでも、受けてなどくれるはずはありません。母親である開祖様の御姿が非常に好感を持たれ、受け入れて下されたと思ひます。

お爺さんの導き、その修行の時にも助けてもらいました。亡くなった父親も夢枕に立つて助けてくれました。私は腰を痛め、修行の護摩木を自分で割つて束ねているうちに立てなくなりました。五体投地という、体を倒して起き上がった、そういう作法も百遍、出来ないのではないかと。護摩木を束ねる時も紙を捻つて紙縋りにしますが、それも出来ませんでした。そんな時、父親が夢枕に立ち、キセルを紙縋りで掃除をし紙縋りを折る姿を見せてくれました。ぱつと飛び起きて、いとも簡単に折れました。これで三十分は多く寝られる。父親が助けてくれたと涙がこぼれました。御霊は生きており、全てを見ていますと実感致しました。お父さん、有難う。それまでは寝られない日々が続いておりました。

私は他宗教での行を挫折したら教団の名折れだという思いを持ちつつもう駄目かなという時に助けて頂きました。皆さんも悩んで悩んでもう駄目かなと信仰していても迷つたりします。迷うのも人間です。それを断ち切るのも人間です。全て「こころ」です。大和の信仰は心づくり、人づくり、そして国の為に役立つ国

づくりです。大國主大神様が願つたその人づくり、心づくりがまだまだ出来ていなかったと思ひます。

先ほど畠山真由美教師が申しましたが、私は不思議な、不思議な祈禱の力を何時の間にか授けられておりました。求めている時は遠いものです。神様はこの者なら、という時に一つのことを教えます。「こういう病があり、どうぞ祈禱、神法を教え、頂けませんか」と申し上げても、中々教えてはくれません。でも、すつと授かるのです。神様は見えて下されております。この者に今これを教えたらいかなるか。人は力を持つと有頂天になります。俺が治した。俺がこうだという祈禱師や霊媒師、宗教界の人々も多くあります。

自分は何のために修行をするのでしょうか。この体、私の身魂を神様が自由自在に使うという事です。そのために私は浄明正直となり、常に清めておかななくてはならないのです。神様が何時でも来て自分を使つてくれるような、そういう身魂をつくるという事です。これが行です。皆さんも家庭にて、私のような大きな行ではなく、毎日神拝詞を拜んで自分の心の中に神様を頂くことです。不平不満、汚い心の中には魔神しか来ないから、大和の大神様の正神を得るには器が大事です。自分の心を清らかにしてなければ正しい神様は来られません。私はそれを修行する度に感じております。邪霊邪氣、魔神でも人間の願いなど叶えてくれるものです。何だつてします。しかしながら霊界にあつても付き纏われ、それが恐ろしいのです。

私は母からしたいと思う修行があれば行きなさいと。世の中は広い。ご縁があつて勉強したいと思つたら行きなさい、との後押しを頂きました。存分に修行をさせてもらいました。まだまだ教団にお返し出来ていませんが、母に御恩を返すには、教団の立派な信仰組織が出来て、因縁

解除の祈禱に頼るだけではなく心づくりのその教えの道をつくり上げなければならぬのです。これが出来なければ私は幽世には参れませんが、開祖様は九十六歳、私八十一歳。あと十五年あります。開祖様の前に亡くなつたら親不孝です。百歳まで現役。今から私の宗教人生の始まりと今日誓わせて頂きました。小さな器の教えの庭ではない、大きな、大きな世界宗教の王となるべく道を大國主大神様は授けられました。そのための第一番の苦勞を覚悟するのです。開祖様もご苦勞をなされました。私もそれなりの苦勞をして参りましたがこれからが本当の苦勞だと思つております。実りのある苦勞、他人様と御魂を大きく救う苦勞です。「笑顔のこぼれる家庭をつくる」という開祖様のその心を、皆さんの力を借りて表さねばならないと思つております。

開祖様が遺した教えがございます。

笑顔について

誰もが笑顔の人生を送る権利を持つている

誰もが笑顔を人に与える義務を背負っている

皆さん方が笑顔をもつて人に接する大きな善徳です。人間は内々でも家の中でも家族同士笑顔を見せる稽古をせねばならないのです。嫌なことは神様に吐き出すことです。おだいこくさまは全てをその袋に背負つて下さい。

笑顔の力は喜びの力である

喜びの力は幸せの力である

幸せの力は繁栄の力である

繁栄の力は平和の力である

笑顔の力は平和を導く力である

どうぞ皆さん、意識して自覺して

自分で笑顔で稽古して下さい。笑顔には運勢を変える力があります。共々に手を携え、共々に心を合わせて社会を建設することが我が大和教団の教えです。今は個人個人の救済だけで終つていると思ひます。信仰者共々に苦しみ分かち合う、喜びを分かち合うというような、信仰の友柄の教団をつくらねばなりません。各々の秘密は守り、安心して話せる信仰の友柄を大和はこれからつくらねばならないのです。大和の教えは自分だけの教えではなく、萬民のための教えであるからこそ、話し伝える使命があるのです。

話しなさい。伝えなさい。広めなさい。

これも行の一つです。信仰は助け合いなのです。共に誰もが救済され、共に誰をも救済する共存共栄の精神です。これがやまと魂です。和心とはやまとのこころです。勇気があり睦まじき心があります。全てを包含するのがやまとのこころ。やまと魂です。日本人だけの魂。これから世界を救うのは日本人、日本の精神だと思ひます。だから大和は、

大和の精神は

全人類のこころのふるさとであり

よりどころである

と掲げています。大調和の世界です。自分だけの利益の為に力でねじ伏せるような戦争紛争はいい加減にやめることです。何時までもそんな世界が続くとは思いません。時がくれば必ず裁かれます。それが霊界の掟です。

厳しい世界があるということです。

人間はこころそのものである

こころは水そのものである

心は自由自在です。心は凄い力を持つ時もあり、もう駄目だとも、あつちこつちと移ろいます。水も転変

自在です。どんな色にも染まるし、どんな形にも収まります。一たび荒れれば大変な力となり、その反面その恩恵も素晴らしいものです。

心の働きと水の働きは同じです。この地球七割は水。宇宙飛行士が、地球は青かったと言う。古事記ではこの地球は大海原とあります。

地球を大海原と称しました。我々も母さんのお腹の中、羊水は大海原です。波の音は心地良く、それをお腹の中で記憶していて懐かしいと感じる訳です。

愛は感謝を芽生えさせ

感謝は愛を育む

祈りと感謝と奉仕です。家族お互いの働きは、社会の中で一番小さい助け合いなのです。信仰者の皆さんにはどうぞ大和の神々、開祖様が喜ばれる助け合い励まし合いの教えの庭をつくつて頂きたいのです。

皆さんの各々の悩みは当然救われます。ですから拜んで下さい。神々は神拝詞を通してどんなことを我等に諭しているのかを感じて下さい。ただ棒読みしても如何にもなりません。どうすれば悩みは解決出来るのか。それは祈りと感謝の心をつくること奉仕です。家でも教団でも社会の助け合いとなつて、大きな光となることです。先程、教務総長が「教えを伸ばす覚悟を持って」と申しました。皆さんもう一度やってみて下さい。「覚悟と情熱をもつて頑張ります。」私もこれから二十年は頑張ります。開祖様が何時も言われておりました。「歳は一つずつ減らすのだよ。」と。年をとるということとは、一つずつ減らすことなのです。永遠の青春です。今日も私より年上の方々もいらつしやるかも知れません。どうぞ頑張つて下さい。これからが本当の皆さんの人生だと思つて楽しんで頂きたいと願うものです。大変ありがたいございました。

『感謝のことば』

責任役員・教務部長
畠山真由美

本日は教統継承三十周年、教主様御誕生奉告祭、誠にありがとうございます。御来賓の皆様、本日はお忙しいところ誠に有難うございます。責任役員・教務部長を仰せつかりまして、畠山真由美と申します。本日は、教統継承三十周年。私たちをお導き、お救いをしていただきました教主様に、心からの感謝を申し上げます。



畠山真由美教務部長による感謝のことば

教主様は昭和四十四年四月に大和教団に奉職なされ、平成七年十一月三日に開祖様から教統をご継承なされ、第二代教主様となりました。本年、奉職五十六年、教統継承三十年の大切な節目を迎えにいたしましたこと、心よりお祝い申し上げます。また心より厚く感謝申し上げます。教主様、誠に有難うございます。

教主様は、開祖様の「行ほど尊いものはない」との御教を、自ら実践・実行なされ、これまで、一千日にわたる御修行を何度となく行満なされ、諸々の難行・苦行の御修行を重ねられ、私たち、教信奉者をはじめ、世のあまたの人々を、霊界の御

霊をお救いなされておられます。その中で、私自身、教主様にお救いして頂きましたお話をさせて頂きます。

私は大和教団に奉職させて頂いて今年で二十年目となります。神様とご縁をいただく前の私の人生は壮絶な人生でありました。いま思えば一冊の本になるぐらい、人がおよそ経験しないようなこと、いろいろなことがありました。その当時、生きることに疲れ果て、二度、自殺をして死にきれず、三度目の自殺をはかろうとしたときに、教主様に、命をお救いして頂きました。このような私に生きる力をお授け下さり、厳しくも温かく育てて下さったのは教主様です。また、私のような者を大和教団の教師に、巫女にまで育ててくださいます。教主様、本当に有難うございます。教主様にお救いして頂かなかつたら、いま、私はここに存在していません。私の人生を幸せにお導き下さいました教主様には、本当に感謝しても感謝しきれないほどのお救いをして頂きました。この場をお借りいたしまして、教主様に心から感謝を申し上げます。

教主様、本当に有難うございます。これまで教主様のお導きを賜り数多の方々がお救いを受けておられます。この二十年、私は教主様の執行なされます、特別神事にて、祈禱の連続を目の当たりにしてまいりました。その中で、ある信者さんのお話をさせて頂きます。

その当時、五十歳の娘さんと七十一歳のお母さんが二人で来られていた方です。娘さんが、「母ちゃんが悪性リンパ腫と告げられて、あと一ヶ月も一か月の余命と、お医者さんから言われました。」と。「なんとか、母ちゃんを助けてください」と涙ながらにお話しされました。

教主様に拝んで頂くことに話がまとまり、すぐに教主様に電話でご報告致しました。教主様は、私の報告

に対して、よし解った、とおっしゃられました。私は、再度、教主様に、医者から悪性リンパ腫と告げられたことをお話ししましたが、教主様は、大丈夫だ。との御言葉でございましたので、とても不思議な思いになりました。

翌日、その娘さんから、「母ちゃんが鼻と口から、大量のどす黒い血を吐いて、いま、集中治療室に入っています。」とのお電話がありました。そのときも、すぐに教主様に拝んで頂きました。その後、数日たっても、お医者さんからは何もお話がありませんでした。だいぶ日がたつてから、お医者さんから、「誤診ではありせん。間違いなく悪性リンパ腫でしたが、がんがなくなっています。」と説明がありました。「まれにみる自分の免疫で、がん細胞が消滅したものと思います。」と話していたそうです。

教主様の神通力の凄さを垣間見た思いでございました。これまで、初めて教主様の特別神事を受けられた方々はいろいろな所で拝んでもらっても、結果が出ない方が多く、教主様に拝んで頂くこと皆さん、問題や悪因縁が解消され、あんなにすごい拝む方にお会いしたことがないと、本当にすごい教主様です。ようやく本物の神様に、教主様に巡り合えたというのを、感激されて、大変感謝されてお話をしております。儀式中は尊い教主様の御祈りの姿に皆さん涙を流されておられます。

教主様のお祈りは誰もまねのできない、本当に尊いお祈りでございます。私たちは本当に尊い教主様をいただいております。皆さまには、ぜひ、教主様の神通力の尊さ、有難さを周りの人にお話をして頂きたいと思っています。

大和では、一人が五人を導く活動を展開いたしております。大和の大神様のみちからを、尊さ、有難さをお話して、必ず救われることを、絶

大和神道祓禊祭

対の信念をもってお話すれば、誰もが人を導くことができます。開祖様、教主様の神通力の尊さ、有難さをお話して、必ず救われることを絶対の信念をもってお話して、ともに救われる道を歩ませて頂きたいと思っています。

私も教主様の御恩に報いるべく、まずは一千世帯、三千人の組織構築に邁進してまいります。開祖様の建てくださった大和教団のおかげさまで、私たち信仰者は本当に大きく救われて今日があります。大和は一切を生かすみおしえて下さいます。皆さんも、多くの人を御神縁に結

本年の天地一切清浄大神業の禊祭は、二十日午前九時より、齋主教務総長のもと御清之儀が執り行われ、大海原綿津見之御神水と、天真名井之御神水にて御分霊の各御神像、厳魂が清められ、次に境内撰社末社の祠をお清め申し上げた。

引き続き午前十一時より、御本宮にて御神前に海川山野の種々の御饗津物が宇豆高く献奉られ、齋主教務総長のもと一年の感謝の御祭である還幸祭が斎行された。

二十一日午前十時より前日祭を齋主教務総長にて斎行申し上げ、此度の禊祭参行随員、代参随員、霊神随員の御名を大前に言上げし、祝詞奏上の後、信奉者各位の願望をご祈念申し上げた。

二十二日の本祭は晴天にも恵まれ午前九時三十分、齋主教務総長以下祭員は大鳥居前から「天地一切清浄大神業」と声高らかに御唱え申し上げ参進し、御本宮へと入殿した。典儀により開祭詞が告げられると

んで、信仰を通して、助けてあげて頂きたいと思っています。大和教団は、開祖様を通じて大國主大神様が世の人々をお救いするために、おつくりになられた教団です。本庁、神社、分祠、各教会でも、あるいはご自宅でも神様の仕事の御奉仕ができますので、皆様におかれましては、積極的に神様のお仕事のお手伝いをなされて、たくさん徳を積んで、幸せになつて頂きたいと思っています。

結びになりますがこの発表の場を与えて下さいました大神様、開祖様のお導きに心より感謝申し上げます。本日は誠にありがとうございます。

齋主教務総長は祝詞座に著かれ、参行奉告詞を申し上げ、大國主大神拝詞、禊誓詞が唱えられた。



禊祭大神業執行を告げられる齋主教務総長

次に祝詞奏上、神語を以て御本宮にての祭儀は、厳肅に申し修められた。

引き続き、御本殿廣前に祭場を移し、天地一切清浄之儀が執行され、火風結界秘言、十字神傳神法、火壇点火がなされた。

火壇の炎は勢いよく燃え上がり祭員により火、塩、水、米、剣、酒の祓が順次執行され忌笹の束を持った随員により大海原綿津見之御神水、



齋主教務総長による五段大祓之神事 太刀之祓執行

天真井水にて参行者の身魂が清められ神直日之神事、第五神界秘言が執行された。

続いて、田中道敏教師の道彦により天之鳥船神事が執り行われ、随員参列者は「この身このまま神身となり」御神柱を三度巡り天地一切の清浄を祈念申し上げた。

次に御本殿では齋主教務総長にて大神業執行仕え意へ奉る旨が申され玉串奉奠の後、大神業に仕え奉りし御霊神を昇霊申し上げた。

続く教務総長の御教話では禊祭の奥深さ、大物生大神の尊き御神徳等が説かれ、大和教の神髄が語られた。結びに散餅散銭の儀が行われ、参行者は尊き神々の紅白餅、福銭を賜り禊祭の一切が申し修められた。

儀式儀、祈禱殿にて直会が催され振舞膳や豆ごはんを頂き、御神前にて神人和楽の和やかな一時を過ごした。中でも大和舞では熊川知長教師の長男の暁くん、横尾匡彦教師の長男の匡将くん、長女の安佳里ちゃん等の幼児たちも共に舞い会場を和ませ大いに盛り上げた。

大國神社に集いし各御神像は全国の分祠教会信奉者宅に帰還、教信奉者等を尊き御神威により日々ご守護申されるものである。

教務総長御教話

皆さん大変有難うございました。暑い中、大丈夫でしょうか。

天地一切清浄大神業の、この有り難い御祭は、本来は海の神事と山の神事でした。火と水の神業で菖蒲田の大海原にて水の清めが行われておりました。御神輿五台に、大前にお祀り申し上げている大國主大神様や事代主大神様、厳魂を奉安して勇壮に海に入つてのお清めをさせて頂いておりました。

東日本大震災が発災してより十四年間、海に入つてのお清めは控えさせて頂いております。



教務総長より御教話を賜る

本日は天真名井という北極神界龍座にある天地宇宙のエネルギーの元の御神水を頂き、更に大海原の大綿津見大神様の御神水をも頂いて、その両方の尊い御神水にてお清めをさせて頂きました。

この世は水で清め、あの世は火で清めます。皆さんは神々の列につらなりて自らが神身となり天地一切、大宇大宙をお清めなさいました。そういう信念を持たれて、これからは大和の信仰に励まれます様ご祈念申し上げます。

大國主大神神諭を拝読致します。

身を病む心を病む者
仕事に子らに家族に
夫婦の縁に病む者

いづれも我の元に來たるべし
我がみそぎの神業に仕えるべし
さすれば己が深き悩みは
大海原に消え失せるであろう

我と共にこの世を浄めよ
我と共に天翔けり國翔けりて
この世を浄めよ

しうれば汝等の道は
おのずと大きく開かれるであろう
我を信じ敬う者には
大きくものを生み与え申す
我は大國主である

私たち大和の信奉者は大和を開かれた神様であられる大國主大神様の御別称として、大物生大神様とお称えを申しております。大きくものを生み与える、そういう力を頂ける御神名です。これから毎日、目を閉じて時間の許す限り、「大物生大神」と振魂神名奉称をして下さい。大きく生み出す力が授かります。実行して初めて形が作られます。善いことも悪いことも何でも、実行して形が現れます。

善いことをすれば善い形が、悪いことをすれば悪い形が現れます。悪い思いや悪い念は必ず悪しき念波となつて自分の心がどんどん病んでいきます。人に対して悪い念を持てば念波となつて放たれますから、恐ろしいものです。

先ほど、鳥船神事を執行しました。始めに何を唱えましたか。

「イ、エ、ホ、サ、ウ」という五行の言葉を天の鳥船神事で唱えました。イという音霊があります。肉体と精神を完全に統一して、金剛不壊の絶対に壊れない心を造り出すのが、「イ」です。絶対に挫けない壊れない心です。

「イ、エ、ホ、サ、ウ」という五行の力、反省させる

という事です。自らが反省して自分の中に宿る悪魔の心を反省させるのままで駄目だと調伏させないといけません。金剛蔵王大権現様の御姿、絶対に壊れない心を造ります。

「エ」は自己を引きしめる言霊で、威厳が増します。

「イ、エ、ホ、サ、ウ」という五行の力、反省させる

「イ、エ、ホ、サ、ウ」という五行の力、反省させる

「イ、エ、ホ、サ、ウ」という五行の力、反省させる

大和の言霊
真心なくして、
本当の助け合いはできない。

（大和神典 第一之四三六言）

「ウー」強く力をこめて心身を養う力。強く深くこめて心と身を養う。凝縮して発揮します。

「イ、エ、ホ、サ、ウ」と、天之鳥船神事で大きな力を頂きました。大宇宙の太陽系宇宙のこの地球のエネルギーを沢山頂けるわけです。そこに神様の存在がおわしまして、ずっと子孫へとつながるわけです。そのようなことを深く思いながら、大和の祈りをして頂きたいと思ひます。

大宇宙の意識と小宇宙の意識は、つながっています。人類八十億人居ますが皆おかしくなっていて、弱くなつて、人を殺したり騙したりと、そういう世の中になっています。

人の意識は大宇宙の意識とつながっています。朝な夕なの祈りにおいて、しっかりと祈り仕えながら、言霊を発しながら、大宇宙と自分の意識が統一されて、世の中の為に人の為に、世界の平和の為に救わせてもらおうのだ、という祈りを捧げてもらいたいものです。

祈りと感謝と笑顔の稽古をすれば絶対に幸せになれます。喜びに満ち溢れます。何時の間にか人間は横柄になつていきます。身の周りの道具にこんなにお世話になつて居るので、感謝を表すのは当然です。それができないから、戦争紛争が続くのでしよう。

家でも会社でも、一つひとつに感謝、全てに感謝をしてみると楽しいものです。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

「ものものはものでない心・魂であるぞ」と、大物生大神様は教えて下さっています。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。話しかけると聞かれます。

8月行事予定表

8月1日	朔日火祥神事
8月3日	三山登拝立
8月5日	神光龍神祭
8月7日	七夕祭
8月11日	親神感謝祭・祖霊万霊祭 出羽三山下山感謝奉告祭
8月12日	祖霊祭例年祭 お盆花供養慰霊祭 日蓮宗縁縁浄霊安鎮祭
8月15日	月次祭・五講祭
8月25日	開祖祭
8月28日	六根修養会

9月行事予定表

9月1日	朔日火祥神事
9月5日	神光龍神祭
9月11日	親神感謝祭・祖霊万霊祭 延命長寿祈願祭
9月14日	敬老祝賀会
9月15日	金剛蔵王大権現祭 故保積敬一郎公七十五年祭 故保積チヤウ之命七十六年祭 万燈慰霊祭
9月20日	月次祭・五講祭
9月25日	六根大行(21日)
9月28日	開祖祭
9月28日	六根修養会

大和教団では、七月二十日投開票日の第二十七回参議院議員通常選挙において、次の教団関係者の方々を推薦致します。皆様方の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



（宮城県在住の方々にお話し下さい。）

相談役
宮城県選挙区
自由民主党
いしかわみつじろう
石川光次郎



（日本全国の方々にお話し下さい。投票用紙には必ず和田政宗と個人名をお書き頂くことを説明願います。）

顧問
全国比例区
自由民主党
わだまさむね
和田政宗